

20055

生産工学に基づいた業務改善

¹群馬大学医学部附属病院、²群馬大学医学部附属病院

高野 聡¹、青山 敬幸¹、小林 春美¹、河村 恵美¹、中野 明彦²

生産工学に基づいた業務改善

群馬大学医学部附属病院 ○高野 聡 青山敬幸 小林春美 河村恵美 中野明彦目的 生産工学（以下IEと略す）を用い、心カテ室での業務を見直しより良い看護を目指す。

方法

- 1) 心臓カテーテル診断(以下心カテ)業務をビデオ撮影し、IEに基づきワークサンプリング・動線分析・共同作業測定を行い問題点を抽出。
- 2) 1) で抽出された問題点を分析し、業務改善を行う。
- 3) 6ヶ月後ビデオ撮影を行い再評価を行う。

結果

- 1) 初回ビデオ撮影の結果 A) ワークサンプリング：以下の業務が改善の対象と判断された。a) 準備～入室の時間帯：物品・薬剤準備 b) 穿刺～退室の時間帯：医師との共同作業による検査中断
検査中の点滴スタンドの移動 新人指導による介助中断 B) 動線分析：清潔操作用の鉗子の設置場所が悪く、無駄な動きが多い。 C) 共同作業の時間は111秒であった。
- 2) 業務改善として以下の4項目を実施した。 A) 点滴スタンドの設置場所の変更 B) カテ室レイアウトの変更 C) 共同作業時間短縮のためソリューションパックの導入 D) 新人指導時間帯の変更
- 3) 6ヶ月後のビデオ撮影の結果 一症例あたり約6分(17.8%)の時間短縮が得られた。業務効率化の副次的効果として、患者への声かけ回数が増加した。

結論

IEは心カテ室の業務改善において有効である。